



SATOYAMA
INITIATIVE

第8回SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI8）定例会合/
生物多様性のポスト2020目標に向けたランドスケープアプローチに関するテーマ別
専門家ワークショップ/合同イベント

公開フォーラム

生物多様性保全に向けた社会生態学的生産ランドスケープ ～里山・里海～

2019年9月4日（水） 14:30-17:30

熊本県熊本市 ホテルメルパルク熊本

主催：IPSI事務局（国連大学サステナビリティ高等研究所）

共催：熊本県、環境省、生物多様性条約事務局

言語：日本語及び英語（同時通訳あり）

生物多様性条約2011-2020戦略計画とその達成のための愛知目標の期限が近づき、2020年以降の世界的な生物多様性のフレームワークと目標の検討が進められています。このプロセス促進のため、世界各地で地域別、テーマ別の会合やイベントが開催されています。

生物多様性保全に関連して注目されているアプローチの一つが「ランドスケープアプローチ」です。これはランドスケープというスケールで保全を検討するものです。SATOYAMAイニシアティブは、ランドスケープアプローチとして、日本の里山（陸域）や里海（沿岸）に相当するような、生産活動と一体化した陸地や沿岸の景観の保全の取り組みをグローバルに展開してきました。

2020年以降の世界の生物多様性に関する枠組みの検討プロセスに貢献するため、このランドスケープアプローチをテーマにした専門家ワークショップが9月3日～6日に熊本で開催されます。このワークショップは第8回SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ定例会合（IPSI-8）に続けて開催されます。

今回の公開フォーラムは、これらの会議の一環として、一般の人々とともに、ランドスケープアプローチや生物多様性保全政策について話し合うことを目的としています。熊本県内の里山里海や阿蘇地域の世界農業遺産などの地元での取り組みも紹介します。熊本から世界に向けて、生物多様性保全のメッセージが寄せられることが期待されます。

プログラム

14:30-	挨拶 国連大学サステナビリティ高等研究所（IPSI事務局） 環境省 熊本県
14:45-	基調講演 ポスト2020目標達成における社会生態学的生産ランドスケープ（SEPLS）の役割 武内 和彦（国連大学サステナビリティ高等研究所上級客員教授、 東京大学未来ビジョン研究センター特任教授、 公益財団法人 地球環境戦略研究機関理事長）
15:05-	生物多様性に関する2020年以降の世界目標に向けた検討プロセス カリダッド・カナレス・ダビラ Caridad Canales Davila （生物多様性条約事務局 農業・生物多様性及び内陸水担当官）
	休憩
15:50-	パネルセッション IPBESグローバル評価レポートにおけるランドスケープアプローチ スニーサ・M・サブ라마ニアン Suneetha M. Subramanian （国連大学 主任客員研究員）
	阿蘇地域創造的復興に向けた地域循環共生圏構築の試み 福崎 稔（東海大学 九州教養教育センター 主任、 東海大学 文明研究所九州分室 分室長、理学博士）
	ランドスケープアプローチと農業生物多様性 アニル・ナデサ・クマール Anil Nadesa Kumar （スワミナサン研究財団 事務局長）
	世界農業遺産『阿蘇の草原の維持と持続的農業』 木庭 正光（阿蘇地域世界農業遺産推進協会 事務局長）
-16:30	南阿蘇地域におけるランドスケープアプローチの実践 大津 愛梨 （（一社）GIAHSライフ阿蘇 理事長、オーツーフาร์มO2farm、 NPO法人田舎のヒロインズ 理事長、株）里山エナジー代表取締役）
-17:30	パネル・ディスカッション モデレーター：瀧口 博明 （国連大学サステナビリティ高等研究所プロジェクト・ディレクター、 IPSI事務局長）

参加を希望される方は事前の登録が必要ですので、次のリンクからご登録ください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfdbUeI-wc3Ebv2ptRwATiVq51Sm8nBr2UQg0VmCyyshFda0w/viewform>

IPSI事務局（国際連合大学サステナビリティ高等研究所）

E-mail: isi@unu.edu TEL: 03-5467-1212

